

## 「バドミントン競技における安全対策」

バドミントン専門部 野本 尚（県立川口高等学校）

はじめに

埼玉県はバドミンントンの強豪県であり、長い間の普及活動・競技力向上の歴史がある。ジュニアから、中高大まで指導者に恵まれ、その歴史を継続するに足る基盤がある。埼玉栄の全国総体の連覇を上げるまでもなく、多くの学校でその実績に応えるだけの努力を続けている。1 昨年には、大宮東高校の奥原希望が全日本チャンピオンにまで登りつめた。そして、2020年の東京オリンピックにも、本県選手の出場を目指している。

### 1 高体連バドミントン専門部について

- ・協会登録数： 教員 442人  
生徒 5,304人

\*年々、生徒の登録数が増加している。

#### ・大会について

4月 関東大会地区・県予選会

5月 全国総体地区予選会

6月 関東大会・全国総体県予選会

7月～8月 全国総体

新人大会地区予選会

9月 新人大会（団体戦）地区予選会

11月 新人大会県予選会

12月 関東選抜大会

1月 各地区大会

3月 全国選抜大会

以上、抜粋

\*年間を通して大会を開催しており、特にオン・オフシーズンはない。

### 2 安全対策について

#### \*通常練習時

- 1 水分補給について・・・各選手の体調管理や、練習場所の温度・湿度などをこまめにチェックしながら、熱中症やオーバーワークに気をつけている。（温度・湿度計なども使用している）
- 2 ウォーミングアップ・クールダウンの必要性を十分理解し、選手の怪我の予防、事故防止に努めるよう、指導者にも周知している。

\*大会運営時

- 1 環境整備・・・体育館によっては、競技の特性を生かすために、フロアが滑りやすくなっている場合もあるので、雑巾がけなどをして、怪我の防止に努める。
  - 2 水分補給・・・以前は、プッシュプルボトルのみの使用許可だったが、全国大会に合わせて、キャップの閉まるタイプであれば使用可能にした。
  - 3 体調管理・・・特に夏の酷暑期には、窓も開けられず、空調も入れられない競技の特性があるので、アイスバックなどで小まめに体温上を押さえ、熱中症対策を行わせている。
- 3 具体的な対策についての今後の課題
- ・指導者講習会や各講習などで、顧問の先生方の怪我防止のために対処法や、実際に怪我や体調が悪くなった選手の対応などを、もっと周知していく必要がある。近年、道具の進化に伴い、ショットやラリーのスピードが上がった関係で、従来より速い動き、対応力などが要求され、その分ハードトレーニングを課する必要も出てきていて、怪我の選手も増えている。まして、高校生はシンスプのような成長痛も重なるので、大きな怪我に繋がらないよう十分注意することが大事である。